

8/15 マタイの福音書 7章 7-11 節「求めよ 探せ たたけ」

小池 宏明 牧師

今日の聖句は「一生懸命努力したならば、求めていることが必ず手に入る」などという積極的なチャレンジを勧めている言葉ではない。

* 誰に何を求めるのか

「求めなさい」とは、「誰に」「何を」求めることだろうか？ 主なる神様に求めるのである。この箇所の前に、主イエス様は「まず、神の国と神の義を求めなさい」と語っておられる。その上で、その他の地上における生活の必要についても、親が子どもに与えるように、必要なものや必要なことを、必要な時に、与えて下さるのだ。

* 主は良い時に良いものを与えて下さる

9-11 節を読むと、天のおられる父なる神様は、ただ子どもが欲しいものを何でも与えるのではなく、完全な知恵と配慮とをもって、相応しい時に、ふさわしい良きものを与えて下さることが分かる。

使徒パウロの体験が良い例で、コリント人への手紙第二 12 章に証しされている。パウロのように、主なる神様に願い求めても、その願いどおりにならないことがある。もしかしたら、自分が高ぶって、主なる神様を無視して生きることがないようにするためなのかもしれない。願い求めたことが思い通りに与えられて、神様から離れてしまうことがあるならば、まことに不幸なことだ。願いが聞かれないと感じる時は、時がまだ早いか、神様の目から見てもっと良い道を与えたいのかもしれない。

* 必死に求め続けよう

ルカの福音書 11 章 5-8 節には、私たちが主なる神様に熱心に求めるべきことを教える例えが語られている。主イエス様は、いつでも、24 時間体制で、私たちの願い求めを聞いてくださり、必要な時に、必要なものを与えて下さるお方。しつこく求めている、気兼ねしなくてもいいと、主イエス様が教えておられる。

例えば、私たちは家族の救いのためにどれほど祈っているだろうか。家族の救いのために祈ることは主のみ心に叶ったことだ。私自身は、父親の救いのために祈るが、なかなか継続できない課題を抱えている。忘れてしまったり、諦めの気持ちが出てきたりする。「求めなさい」とは「求め続けなさい」と継続的な意味がある。大切な家族の救いのために、時々祈っているけれど、継続的に祈ることができない、とするなら、24 時間体制で私たちの願い求めを聞いてくださる主なる神様に、私の本気度が伝わっているだろうか？ まことに、不信仰な自分であることを認めて、主の憐れみを求め続けたい。「主よ、憐れんで下さい。」「主よ、不信仰で愚かな私を憐れんで下さい。」と。